



低温期の品質・収量に 優れるアオジソ新品種 「愛経3号」を開発

(平成30年6月品種登録出願公表)



愛知県のアオジソ生産量は全国第1位で、「愛経1号」(平成21年品種登録)や在来種を用いて周年出荷されています。

しかし、冬から春に収穫する作型の場合、「愛経1号」では葉のふちが波打って出荷調整作業に手間がかかったり、在来種では葉の裏が赤くなり商品価値が低下するなどの問題が発生しています。

そこで、低温期の葉の波打ちや葉裏の

着色が少ない新品種「愛経3号」を開発しました。本品種は「愛経1号」に比べ1割以上収量が多いほか、重要病害の一つであるシソ斑点病にも抵抗性を持っています。

平成31年度から東三河地域で本格的な出荷が始まり、本県のアオジソ生産に大きく貢献するものと期待されます。

(園芸研究部)

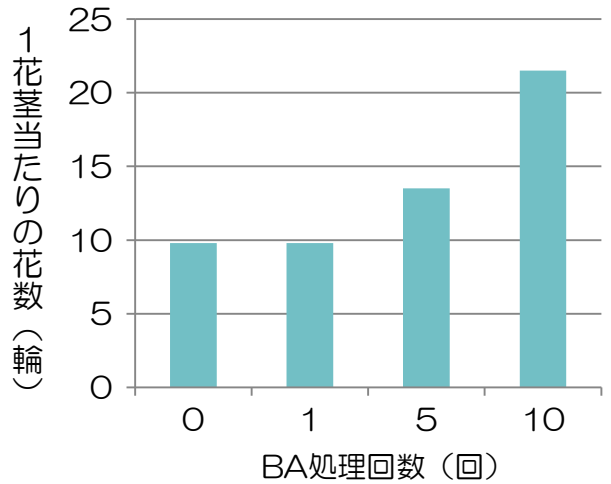
本品種は愛知県経済農業協同組合連合会と共同開発しました。

BA処理によるコチョウランの花数増加技術の開発



無処理 1回 5回 10回

BA処理がコチョウランの花数に及ぼす影響



BA処理方法

愛知県のコチョウラン産出額は全国第1位で全国シェアの約18%を占めますが、生産者からは、より花数が多く商品価値の高いコチョウランを生産する技術が求められています。

そこで、花茎先端部にBA（ベンジルアデニン）を噴霧し花数を増やす技術を開

発しました。花茎に蕾が7個程度付いた後、1週間に1回のBA処理（濃度30ppm）を5回以上行くと確実に花数を増やすことができます。

現在、BAの農薬登録拡大に向けた試験を進めており、登録後は、この簡易な技術の利用で生産者の所得向上が期待できます。

（園芸研究部）

本研究は農林水産省委託プロジェクト「実需ニーズの高い新系統及び低コスト栽培技術の開発」で実施しました。

マメ科緑肥作物を利用したキャベツの窒素減肥技術

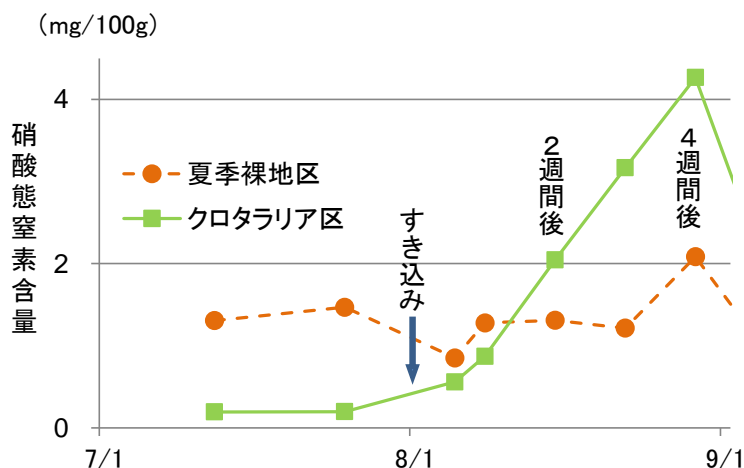


マメ科緑肥作物「クロタラリア」

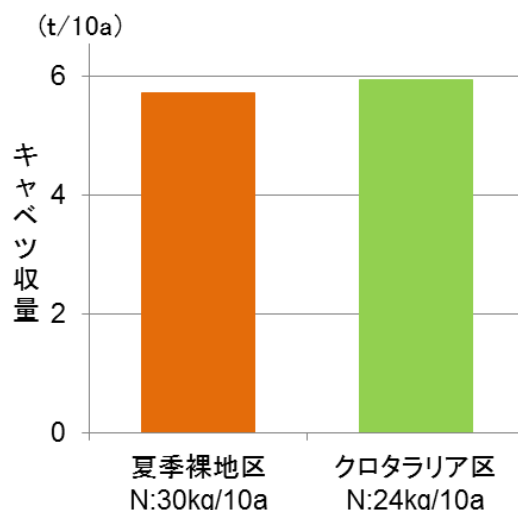
緑肥作物の収量及び成分吸収量

緑肥作物の種類	収量 kg/10a	成分吸収量 kg/10a			C/N
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
ソルガム	6,240	9.1	3.6	41.5	42.8
クロタラリア	3,508	16.2	3.0	21.0	17.9

注) 緑肥作物栽培期間: 60 日



クロータラリアすき込み後の土壤中硝酸態窒素含量の推移



クロータラリアのすき込み後に減肥栽培したキャベツ収量

マメ科緑肥作物のクロタラリアは、イネ科のソルガム等と比べ窒素吸収量が多くC/N比が低いため、後作で窒素肥料の削減が可能と考えられます。そこで、これを利用したキャベツの窒素減肥技術について検討しました。

土壌中の硝酸態窒素含量は、クロタラリアすき込み直後から急激に増加し、約4週間にわたり夏季裸地区より高くなることがわかりました。この結果をもとに、

2017年収穫作において、クロタラリアすき込み2週間後にキャベツを定植し減肥試験を行ったところ、窒素施肥量を6kg（慣行の2割）削減した区でも、夏季裸地区と同等の収量が得られました。

以上のことから、キャベツの定植前にクロタラリアをすき込むことにより、クロタラリア由来の窒素供給が期待でき、後作キャベツの減肥につながる可能性が示唆されました。（東三河農業研究所）

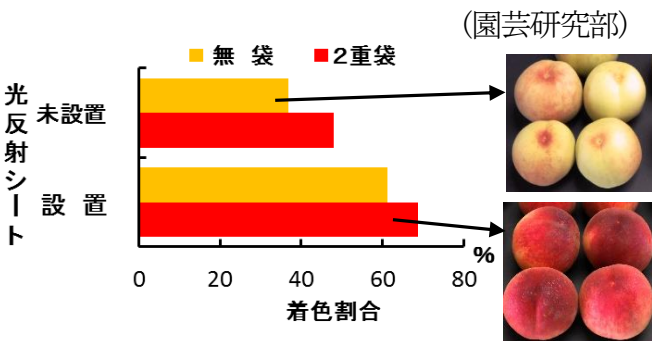
本研究は農林水産省委託プロジェクト「生産コストの削減に向けた有機質資材の活用技術の開発」で実施しました。

研究トピックス

モモ新品種「さくひめ」の品質向上対策

農研機構で育成されたモモ新品種「さくひめ」は、味がよく、品質低下の原因となる核（種子）割れの少ない早生（6月下旬収穫）品種です。しかし、果皮に赤みが少なく、年によって、商品価値を損なう果点（白点）が表面に多発することがあります。

そこで、5月上旬から6月上旬まで2重袋を利用し、さらに6月上旬から樹下一面に光反射シートを敷くことで、着色割合が増加し、果点の発生も抑制できることを明らかにしました。

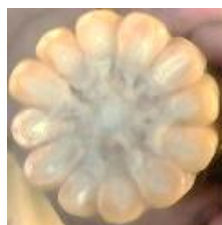
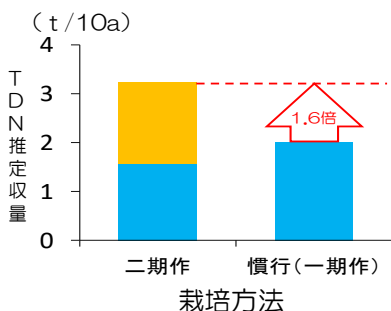


2重袋と光反射シートの有無が「さくひめ」の着色に及ぼす影響

愛知県における飼料用トウモロコシの二期作栽培効果を検証

愛知県における飼料用トウモロコシ二期作栽培の可能性について検討しました。

4月に極早生品種を播種、7月下旬に収穫後、二期作専用品種を播種し、12月上旬に収穫しました。その結果、12月でも充実した子実を収穫できました。また、消化できる栄養分（TDN）の合計推定収量も慣行（一期作）の1.6倍となり、本県における二期作栽培の可能性が示唆されました。（畜産研究部）



12月収穫の子実

注) 一期作は4月中旬播種、8月上旬収穫

土壌窒素肥沃度の簡易測定でキャベツの適正施肥が可能に！

農研機構で新しく開発した土壌窒素肥沃度の簡易測定法を用い、キャベツ畑土壌からの窒素供給量を推定しました。さらにキャベツの窒素吸収量から、土壌または肥料の窒素利用率を計算しました。

これらをもとに、平成31年度中に土壌窒素肥沃度に応じたキャベツの窒素施肥指針を作成し、簡易で適正な施肥技術を確立します。



土壌窒素肥沃度の測定に用いる器具

(環境基盤研究部)

本研究は農林水産省委託プロジェクト「生産コストの削減に向けた効率的かつ効果的な施肥技術の開発」で実施しました。

夜間冷房によるエラチオールベゴニアの高温対策

夏期の高温によるエラチオールベゴニアの開花遅延対策として、ヒートポンプを用いた冷房方法を検討しました。

夜間冷房（18時～6時の間18℃に設定）を週7日（毎日）、5日、3日間実施し、無冷房の場合と比較したところ、冷房日数が長いほど出荷適期が早まるとともに、総開花輪数も増加することがわかりました。（園芸研究部）



週7日 週5日 週3日 無冷房

冷房日数と草姿

注) 冷房期間は平成29年7月7日～9月12日

研究短報第123号

編集・発行 愛知県農業総合試験場
〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1
TEL 0561-62-0085 内線322 (企画普及部)
FAX 0561-63-0815
<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>